

東北 旅のしおり

Name



28 期 生 修 学 旅 行 計 画

1. 行先・方面 南東北方面

2. 期日 昭和49年10月21日(月)～25日(金)

3. 旅行団編成 学年をA・B2団に編成し、1～6組をA団、
7～11組をB団とする。

4. 参加生徒数 男子 311名 女子 184名 計 495名
同内訳

A団 男子 178名 女子 93名 計 268名

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	計
男子	22	45	22	46	21	21	177
女子	23		22		22	24	91
計	45	45	44	46	43	45	268

B団 男子 134名 女子 93名 計 227名

	7組	8組	9組	10組	11組	計
男子	20	23	452	23	23	134
女子	24	23		23	23	93
計	44	46	452	46	46	227

5. 付添役職員任務分担

	A 团			B 团		
團長	松沢			吉岡		
総務	小井			高橋		
指揮	小井			徳野		
生活指導	中岡 堀内 大谷			津崎		
庶務	明山 三原			横手 岡山		
記録	松沢			松岡		
保健	北橋	北田	湊	船原		

6. 修学旅行委員

1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組	9組	10組	11組
藤井	鈴木	西沢	児島	竹島	岡部	熊岡	本松	石山	仲谷	庄司
長岩	水谷	鳥居	黒田	松原	黒岡	杉浦	加島	佐藤	入倉	仲須賀

某

委員長 藤井
A団代表 岡部
B団代表 仲谷

同諸係

しおり編集 藤井、西沢、石山、仲谷（協力、地歴部、美術部）

行事計画 A団 児島、黒田

B団 庄司、仲須賀

7. 保健委員

組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
男	福井	森本	山名	中	山村	坪田	丸岡	山中	渡辺	邑上	片山
女	岡林		加藤		堀川	吉村	土井	塚田		松村	山本

===== A 団 日 程 表 =====

第1日 7:15 集合 新大阪駅団体待合所（地図参照）

こだま 11:55 山手線 特急 16:58
新大阪駅 7:45 114号 東京駅 上野駅 仙台駅
13:00 ひばり 7号 17:10

注：昼食持参のこと 17:50
広瀬川温泉 (泊) (ホテル奥仙台)

10:30 13:30
第2日 広瀬川温泉 松島海岸 仙台青葉城
9:00 五大堂・瑞巖寺 12:30 14:00

16:00 17:20
蔵王刈田岳 蔵王温泉 (泊) (岡崎屋旅館)
お金見学 16:40

10:00 12:20 14:40
第3日 蔵王温泉 山寺立石寺 赤湯 (食) 白布峰
9:00 11:20 13:10 15:00

15:40 盘梯高原 (泊) (裏盤梯観光ホテル)

五色沼散策 12:30 レークライ 14:00
第4日 盘梯高原 五色沼駐車場 浄土平
10:00 桧原湖遊覧 (弁) 12:40 スカイ・ライン 14:40

16:20 猪苗代 18:00 特急 21:19 山手線
志田浜 群山駅 上野駅 東京駅 (車中泊)
16:50 18:52 (弁) ひばり 12号 21:55

第5日 貸切臨時急行 7:24 大阪駅 7:50 解散（大阪駅中央コンコース）

—B 団日程表—

第1日 7:45 集合 新大阪駅団体待合所(地図参照)

こだま	12:25	山手線	特急	15:55
新大阪駅	116号	東京駅	上野駅	群馬駅
8:15	(食)		やまびこ 3号	16:10

注: 昼食持参のこと 17:40 盤梯高原 (裏盤梯観光ホテル)

五色沼散策 10:20集合 レーク・ライン 11:50
 第2日 盤梯高原 ----- 五色沼駐車場 ----- 浄土平 -----
 9:00 10:30 (スカイライン) 13:00

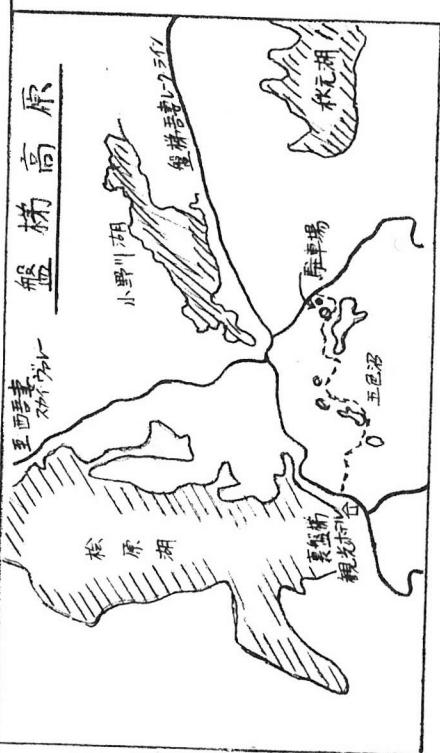
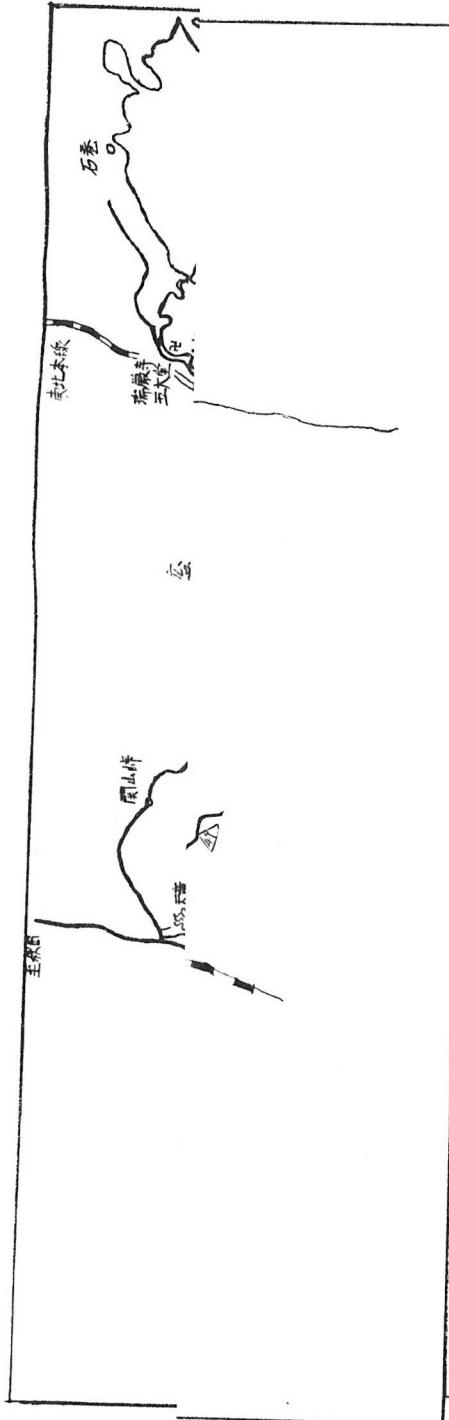
スカイ・パレ	15:00	16:30	17:30
白布峠	-----	赤湯	藏王温泉 (宿)
15:20		16:50	(堀屋旅館)

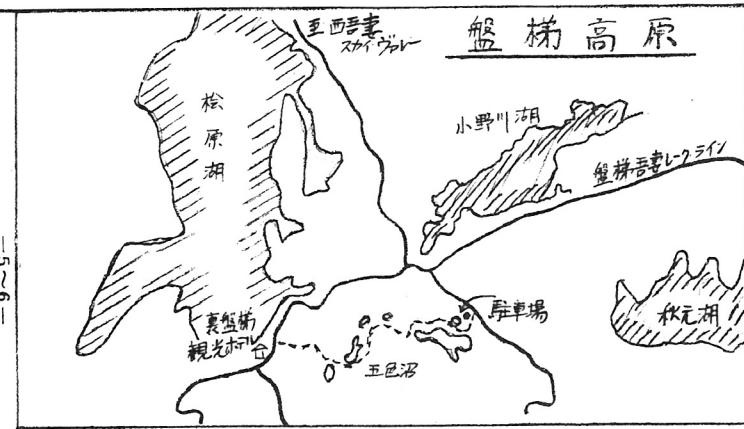
9:50 12:30 13:00
 第3日 藏王温泉 ----- 藏王刈田岳 ----- 山寺立石寺 ----- 広瀬川温泉 (宿)
 9:00 お釜見学 10:30 (食) 14:30
 (ホテル奥仙台)

10:30	14:00	15:00
広瀬川	----- 松島海岸 (食) 仙台青葉城 ----- 仙台駅	
9:00	五大堂・瑞巌寺 13:00	14:40 16:20

特急	20:19	山手線
(井)ひばり11号	上野駅	東京駅 → (車中泊)
		21:55

第5日 貸切臨時急行 7:24
 大阪駅 7:50 解散(大阪駅中央コンコース)





□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

28期生修学旅行乗車区分・宿割表

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

乗車区分

バス

A団

1号車	2号車	3号車	4号車	5号車	6号車
2組	3組	4組	5組	6組	1組

B団

1号車	2号車	3号車	4号車	5号車
9組	8組	10組	11組	7組

宿 舎

旅館名	所在地	電話番号
ホテル奥仙台	宮城県宮城町上愛子	022386・2151
岡崎屋旅館	山形県藏王温泉48番地	023694・9222
堺屋旅館	山形県藏王温泉8番地	023694・9322
裏磐梯観光ホテル	福島県磐梯高原桧原湖畔	024132・2511

旅館への電話は生徒には、緊急の場合を除いて、伝えない。

クラスごとの班分け

A団

1組

班	性別	氏名 (○印は班長)	人数
班	性別	○ 芦田 池田 池戸 井上 白井 大岡 大木	7
2	男	○ 岡本 熊本 小泉 小林 小宮 滝 西浦	7
3	男	○ 浜田 福井 藤井 松井 宮井 安尾 山田 真鍋	8
4	女	○ 赤野 岩崎 植田 大橋 岡林 片岡 久世	7
5	女	○ 黒島 阪本 新家 田鶴 田中 長岩 花沢 藤田	8
6	女	○ 松本 水本 村田 森 蔡田 柳原 山口 山本	8

2組

班	性別	氏名 (○印は班長)	人数
1	男	○ 池田 増田 井口 稲垣 小崎 田中 西田 上野	8
2	男	○ 高萩 中村 杉本 津田 渡辺 妻谷 八木 三木	8
3	男	○ 吉田 和田 小野 岸 久川 角 松本 山下	8
4	男	○ 多々 鈴木 山田(耕) 山田(俊) 水谷 宮崎 井上	7
5	男	○ 福井 金井 川嶋 野口 木村 門野 芝原	7
6	男	○ 吉村 山崎 海野 喜田 木口 岩根 森本	7

3組

班	性別	氏名 (○印は班長)	人数
1	男	○ 赤松 秋山 大東 小林 高橋 徳島 中居	7
2	男	○ 中井 中筋 中谷 西沢 西田 日置 藤田	7
3	男	○ 本條 前田 正岡 森 森口 山口 山名 清水	8
4	女	○ 背木 井上 大岸 大橋 岡本 加藤 木村	7
5	女	○ 木村(礼) 郡 佐竹 関 田村 鳥居 西端	7
6	女	○ 平井 桜井 向井 森岡 八木 矢倉 山村 和田	8

4組

班	性別	氏名 (○印は班長)	人数
1	男	○ 阿閉 池田 今北 井村 井寄 岩田 上田 後	8
2	男	○ 大橋 大山 柿本 加藤 木村 黒田 児鶴 酒居	8
3	男	○ 板野 鈴木 妹尾 田口 竹森 田中 田辺 植谷	8
4	男	○ 中 中野 中村 西川(富) 西川(恒) 西田 沼田 福岡	8
5	男	○ 伏木 藤本 真壁 三津井 山崎 山下 山田	7
6	男	○ 山本 吉田 吉原 米倉 渡辺 吉村	6

5組

班	性別	氏名 (○印は班長)	人数
1	男	○ 池尻 近藤 長谷川 小谷 田村 内本 岡部	7
2	男	○ 池田 木南 山下 合田 安田 寺内 神出	7
3	男	○ 馬瀬 竹島 山村 岡本 蔵本 大谷 くじ木	6
4	女	○ 青柳 梶原 小林 高橋 後藤田 信近 右近	7
5	女	○ 小川 高橋 西尾 堀川 林 牧田 松葉 横山	7
6	女	○ 新田 宮越 西尾(め) 山田 林 道坂 松島 東野	8

6組

班	性別	氏名 (○印は班長)	人数
1	男	○ 富岡 胡日 松本 岡部 伊藤 大橋 芝池 植村 閑	9
2	男	○ 坪田 東 小栗 片桐 松野 大野 高岡 田中	8
3	男	○ 飯田 丸山 石貝 西口	4
4	女	○ 川幡 板倉 江上 神通 竹本 辻林 鶴屋 山口	8
5	女	○ 浅野 浦田 黒岡 寺田 藤井 本多 柳本 吉村	8
6	女	○ 雄川 生田 武田 西谷 平田 御厨 辻村 村田	8

B 団

7 組

班	性別	氏 名 (○印は班長)	人数
1	男	○ 井上 岡田 北野 久保 熊岡 小町	6
2	男	○ 渡辺 松宮 前田 丸岡 林 藤本 田中	7
3	男	○ 浜岡 池北 東條 米田 富本 芹本 太田	7
4	女	○ 江崎 織田 石橋 黒山 米谷 康 杉浦	7
5	女	○ 中村 土井 山田 楠本 岡本 吉村 服部 山本	8
6	女	○ 影山 大浦 田中 我有 青木 松本 道旗 津田 森江	9

8 組

班	性別	氏 名 (○印は班長)	人数
1	男	○ 津地 清水 染川 上田 永田 金井 道下 尼川	8
2	男	○ 田中 武田 梅崎 福井 高橋 松村 岡田	7
3	男	○ 二宮 寺田 山下 小橋 山中 本松 山沢 加藤	8
4	女	○ 小野 小原 今釜 馬頭 松本 鍋本 塚田	7
5	女	○ 中田 横山 池田 白須 山口 戸所 加島	7
6	女	○ 和田 斎藤 杉本 小西 吉田 川島 西本 牧野 尼崎	9

9 組

班	性別	氏 名 (○印は班長)	人数
1	男	○ 浅生 伊沢 石橋 石山 市口 猪砂 梅原	7
2	男	○ 大野 奥村 乙井 小幡 海妻 加島 仲谷 亀島	8
3	男	○ 小島 等尾 酒谷 定平 佐藤 沢田 木戸	7
4	男	○ 武田 竹中 田中 谷井 田和 中野 中道 中村	8
5	男	○ 野口 藤井 藤本 堀江 松田 松原 光井 光田	8
6	男	○ 森 森本 吉尾 芳中 吉見 吉本 渡辺	7

10 組

班	性別	氏 名 (○印は班長)	人数
1	男	○ 井本 大室 尾本 岡村 菊田 喜多 増 井町	8
2	男	○ 坂本 笹原 貞永 高根 仲谷 中山 采木 西	8
3	男	○ 褒田 宮川 邑上 森 山口 山田 吉田	7
4	女	○ 植田 北野 木下 入倉 亀井 谷口 由井 松村	8
5	女	○ 井関 木村 萩原 大中 古酒 森田 増田	7
6	女	○ 家口 亀田 田川 高橋 染田 森岡 大槻 古川	8

11 組

班	性別	氏 名 (○印は班長)	人数
1	男	○ 井手 岡崎 梶原 片山 北井 来栖 黒住 小出	8
2	男	○ 清水 庄司 高橋 田中 寺田 中居 布内 波止	8
3	男	○ 平尾 本庄 皆川 八尾 山野 吉井 和田	7
4	女	○ 天城 石橋 浦 浦田 北野 霞 小野 帛	8
5	女	○ 谷 塚由 中桐 中須賀 中尾 西田 西野 林	8
6	女	○ 藤井 堀川 丸橋 安井 山上 山本 吉垣	7

宿 倉 部 屋 割 表

※ 部屋記号の略記について

第二別荘二階	二別荘二
第二別館二階	二別館二
別館中二階	別館中二
慶山荘二階	慶 二
会館一階	会 一

A団 10月21日 ホテル奥仙台

1組

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
F	からまつ	男	○池戸 熊本 真鍋 西浦 池田 岡本 芦田 福井 滝 松井 浜田 井上	13
B 1	3 0 3	男	○大槻 大岡 山田 小泉 白井 宮井 小宮 小林 藤井	9
B 2	3 0 8	女	○植田 片岡 岡林 阪本 松本	5
〃	3 1 0	女	○赤野 田中 大橋 新家 山口 長岩 久世 黒島 花沢	9
〃	3 1 1	女	○岩崎 田嶋 水本 柳原 村田 蔡田 森 藤田 山本	9

2組

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
A 1	大広間	男	○多々 水谷 山田(俊) 山田(耕) 宮崎 鈴木 井上 渡辺 妻谷 杉本 和田 芝原 中村 三木 門野	15
B 1	3 0 6	男	○吉村 岩根 木口 海野 喜田 山崎 山下 松本	8
〃	3 0 7	男	○池田 井口 増田 田中 小崎 西田 稲垣 木村 上野	9
H	しらかば	男	○福井 小野 角 吉田 金井 岸 津田 川嶋 野口 久川 高萩 森本 八木	13

3組

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
B 1	3 0 5	男	○赤松 秋山 大東 小林 高橋 徳島 中居 中井 中筋	9
G	やまゆり	男	○中谷 西沢 西田 日置 藤田 本条 前田 正岡 森 森口 山口 山名 清水	13
B 1	3 0 1	女	○大岸 大橋 木村 関	4
B 2	3 1 2	女	○青木 井上 木村(佳) 郡 平井 増井 向井 森岡 八木	9
B 2	3 1 3	女	○岡本 加藤 佐竹 田村 鳥居 西端 矢倉 山村 和田	9

4組

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
C 1	2 1 1	男	○吉村 阿閉 植谷 加藤 酒居 中野 沼田	7
C 2	2 1 2	男	○後 大山 西田 田中 吉田 吉原	6
C 2	2 0 1	男	○池田 井寄 坂野 岩田 黒田 山田 山崎	7
C 2	2 0 2	男	○今北 渡辺 藤本 米倉 西川(富) 松田 竹森	7
C 2	2 0 3	男	○井村 大橋 児鶴 田辺 中 西川 山本	7
C 2	2 0 5	男	○鈴木 上田 田口 福岡 三津井 真壁	6
C 2	2 0 6	男	○木村 伏木 中村 柿木 妹尾 山下	6

5組

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
B 3	宴会場	男	○池尻 池田 内本 大谷 岡部 岡本 神出 木南 栗本 合田 小谷 近藤 竹島 田村 寺内 長谷川 馬瀬 安田 蔽本 山下 山村	21
A 2	1 0 5	女	○小川 高橋 西尾 堀川 林 牧田 横山	7
A 2	1 0 6	女	○青柳 梶原 高橋 後藤田 小林 信近 右近	7
A 2	1 0 7	女	○新田 宮越 西尾 山田 林 道坂 松島 東野 松葉	9

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
C 1	2 0 7	男	○閑 関部 富岡 伊藤 大橋 芝池 植村	7

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
C 1	2 0 8	男	○朝日 石貝 芹山 西口 飯田 松本 高岡	7
C 1	2 1 0	男	○坪田 東 片桐 小栗 松野 大野 田中	7
A 2	1 0 2	女	○浅野 柳本 本多 黒岡 神通 板倉 藤井	7
A 2	1 0 3	女	○御厨 雄川 平田 武田 村田 辻村 西谷	7
B 2	3 1 5	女	○山口 鶴屋 寺田 浦田 竹本 川幡 辻林 江上 生田 吉村	10

10月22日 岡崎屋旅館

1組

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
中館一階	1 5	男	○浜田 西浦 池田 芦田	4
中館三階	3 1 0	男	○大槻 大岡 山田 小泉 臼井 宮井 小宮 小林 熊本 藤井	10
本館二階	おきな	男	○池戸 岡本 安尾 滝 松井 井上 真鍋 楠井	8
別館二階	ひめ	女	○岡林 田嶋 阪本 水本 松本 柳原 赤野 山口 田中	9
別館二階	もも	女	○久世 岩崎 村田 蔡田 森 花沢 黒島	7
別館二階	うめ	女	○大橋 山本 片岡 藤田 植田 長岩 新家	7

2組

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
本館三階	みやま	男	○小野 久川 吉田 角 岸 森本	6
木館三階	ときわ	男	○金井 野口 川嶋 福井	4
本館三階	3 0 1	男	○多々 水谷 山田 山田 宮崎 鈴木	6
木館三階	3 0 2	男	○門野 芝原 妻谷 三木 和田	5
木館三階	3 0 3	男	○稻垣 池田 小崎 田中 増田 井口	6
木館三階	3 0 4	男	○松本 上野 木村 山下 井上 西田	6
木館三階	3 0 5	男	○高萩 中村 渡辺 八木 津田 杉本	6

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
本館三階	3 0 6	男	○岩根 喜田 海野 木田 吉村 山崎	6

3組

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
中館二階	3 1 1	男	○赤松 秋山 大東 小林 高橋 徳島 中居 中井 中筋 中谷	10
本館三階	すみれ	男	○西沢 西田 日置 藤田	4
本館三階	いづみ	男	○本条 前田 正岡 斎森 口山 口山 山名 清水	8
別館三階	別一	女	○岡本 田村 鳥居 西端 山村	5
別館三階	別二	女	○青木 井上 佐竹 向井 矢倉	5
別館三階	別三	女	○大岸 大橋 加藤 木村 関 和田	6
別館四階	別七	女	○木村 郡 平井 増井 森岡 八木	6

4組

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
本館二階	ちぐさ	男	○山崎 中野 田口 植谷	4
本館二階	やよひ	男	○中村 伏木 吉村 木村 真壁 児島 鈴木 後	8
本館二階	さゆり	男	○西川 三津井 山田 池田 渡辺 山本	6
本館二階	むすび	男	○田中 阿閉 妹尾 吉原	4
本館二階	2 0 3	男	○山下 西田 福岡 米倉 西川 今北	6
本館二階	2 0 5	男	○井村 井寄 上田 大橋 柿木 加藤 黒田 酒居 坂野 藤本	10
本館三階	つる	男	○松田 大山 竹森 田辺 中 岩田 沼田 吉田	8

5組

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
中館一階	1 0	男	○池尻 近藤 長谷川 小谷	4
中館一階	1 1	男	○内本 大谷 岡部 田村	4
中館一階	1 2	男	○栗木 木南 竹島 馬瀬 山下	5
中館一階	1 3	男	○池田 合田 岡本 山村	4

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
中館一階	1 4	男	○安田 寺内 蔡本 神出	4
別館一階	ゆ り	女	○松葉 林 牧田 高橋 右近 西尾(め)	6
別館二階	や え	女	○東野 松島 西尾 鶴川 信近 宮越	6
別館三階	別館 5	女	○高橋 道坂 林 鶴原 新田 後藤田	6
別館四階	別館 6	女	○青柳 小林 山田 横山 小川	5

6組

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
本館二階	2 0 1	男	○大橋 富岡 朝田 松本 岡部 伊藤 芝池 植村 閑 丸山 石貝	11
中館三階	3 1 2	男	○西口 飯田 坪田 小栗 片桐 松野 大野 高岡 田中 東	10
別館一階	き く	女	○竹木 鶴屋 寺田 浦田 山口 川幡	6
別館一階	は ぎ	女	○雄川 御厨 平田 迂村 村田 武田	6
別館中二	ま つ	女	○浅野 本多 柳本 江上 迂林 黒岡 板倉 神通 吉村 藤井 西谷 生田	12

10月23日 裏盤梯観光ホテル

1組

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
会一	盤梯 5	男	○池戸 熊本 福井 真鍋 岡本 滝 松井	7
会一	盤梯 6	男	○西浦 浜田 池田 藤井 芦田 井上 安尾	7
会一	盤梯 13	男	○大槻 大岡 山田 小泉 白井 宮井 小宮 小林	8
慶二	紺碧 1	女	○片岡 山本 藤田 植田 岩崎	5
慶一	紺碧 2	女	○黒島 村田 蔡田 森 花沢 久世	6
慶一	紺碧 3	女	○新家 山口 田中 大橋 赤野 長岩	6
慶一	夕霧 1	女	○阪本 田嶋 岡林 水本 松本 柳原	6

2組

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
慶二	遠山 1	男	○多々 水谷 宮崎 鈴木 山田 山田	6
慶二	遠山 2	男	○松本 上野 木村 山下 井上 西田	6
慶二	遠山 3	男	○岩根 喜田 海野 木口 吉村 小崎	6
慶二	松嶺 1	男	○金井 野口 川鶴 福井 芝原 三木 門野	7
慶二	松嶺 2	男	○高萩 中村 渡辺 八木 杉本 津田 妻谷	7
慶二	松嶺 3	男	○久川 吉田 角 小野 岸 森本 和田	7
慶二	朝霧 1	男	○小崎 田中 増田 井口 稲垣 池田	6

3組

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
会一	盤梯 7	男	○日置 藤田 本条 前田 正岡	5
会一	盤梯 8	男	○森 森口 山口 山名 清水	5
慶一	湖畔 1	男	○赤松 秋山 大東 小林 高橋 徳島	6
慶一	湖畔 2	男	○中居 中井 中筋 中谷 西沢 西田	6
慶一	深雪 1	女	○岡本 佐竹 田村 鳥居 西端 矢倉 山村	7
慶一	深雪 2	女	○青木 井上 木村 郡 平井 榆井 向井 森岡 八木	9
慶一	湖畔 3	女	○大岸 大橋 加藤 木村 関 和田	6

4組

棟名・階	室名	性別	氏名 (○印は室長)	人員
会一	盤梯 12	男	○阿閉 今北 井村 井寄 岩田 酒居 坂野 鈴木 田口 田中 田辺 沼田 福岡 藤本 真壁 山田 山本 吉原 吉村	19
慶二	朝霧 3	男	○大山 山下 上田 大橋 池田 米倉	6
慶二	朝霧 5	男	○木村 中野 上田 吉田 柿木 竹森	6
慶二	朝霧 6	男	○妹尾 児鶴 三津井 伏木 中村	5
慶二	楓 1	男	○渡辺 松田 黒田	3
慶二	楓 2	男	○山崎 中 西川(恆) 加藤	4
慶二	楓 3	男	○西川(富) 藤本 西田 後	4

5 組

棟名・階	室 名	性 別	氏 名 (○印は室長)	人員
会 一	盤 梯 1	男	○池尻 近藤 長谷川 小谷 田村 内本 関部	7
会 一	盤 梯 2	男	○山下 木南 合田 池田 安田 寺内 神出	7
会 一	盤 梯 3	男	○竹島 馬瀬 山村 岡本 栗木 蔡本 大谷	7
慶 一	夕 霧 2	女	○新田 宮越 西尾 山田 林 道坂 松島 東野 松葉	9
慶 一	夕 霧 3	女	○小川 高橋 西尾(圭) 堀川 林 牧田 横山	7
慶 一	深 雪 3	女	○青柳 梶原 小林 高橋 後藤田 信近 右近	7

6 組

棟名・階	室 名	性 別	氏 名 (○印は室長)	人員
会 一	盤梯 10	男	○松本 富岡 朝村 関部 伊藤 大橋 芝池 植村 閑	9
会 二	盤梯 11	男	○東 塚田 小栗 片桐 松野 田中	6
慶 二	朝 霧 2	男	○石貝 大野 高岡 丸山 西口 飯田	6
慶 一	夕 霧 5	女	○鶴屋 竹本 寺田 浦田 山口 川幡	6
慶 一	夕 霧 6	女	○黒岡 本多 柳本 藤井 吉村 西谷	6
慶 一	石楠花 1	女	○辻林 御厨 平田 江上	4
慶 一	石楠花 2	女	○神通 浅野 板倉 生田	4
慶 一	石楠花 3	女	○辻村 雄川 武田 村田	4

B 団 10月21日 裏盤梯観光ホテル

7 組

棟名・階	室 名	性 別	氏 名 (○印は室長)	人員
会 二	吾妻 6	男	○浜岡 太田 芋本 丸岡 林 富本 松宮	7
会 二	吾妻 7	男	○渡辺 熊岡 藤本 前田 池北 田中 小町	7
会 二	吾妻 8	男	○北野 久保 井上 岩田 米田 東条	6
慶 一	夕 霧 1	女	○土井 楠本 山田 山本 中村 岡本	6
慶 一	深 雪 2	女	○道旗 我有 森江 澄田 大浦 田中 影山 青木 松本	9
慶 一	深 雪 3	女	○江崎 吉村 服部 米谷 杉浦 黒山 良 織田 石橋	9

8 組

棟名・階	室 名	性 別	氏 名 (○印は室長)	人員
会 二	吾妻 1	男	○金井 尼川 清水 道下 染川	5
慶 二	遠 山 1	男	○山中 津地 二宮 寺田 山下 小橋	6
慶 二	遠 山 2	男	○加藤 永田 上田 岡田 本松 山沢	6
慶 二	松 頼 3	男	○武田 田中 福井 松村 高橋 梅崎	6
慶 一	夕 霧 5	女	○畠田 塚田 今釜 小野 加島 白須	6
慶 一	夕 霧 6	女	○西本 尼崎 吉田 戸所 小原 松本	6
慶 一	石楠花 1	女	○池田 中田 山口	3
慶 一	石楠花 2	女	○斎藤 杉本 馬頭 牧野	4
慶 一	石楠花 3	女	○鍋本 横山 川島 小西	4

9 組

棟名・階	室 名	性 別	氏 名 (○印は室長)	人員
会 二	吾妻 5	男	○神谷 小島 田和 松原	4
会 二	吾妻 10	男	○石山 梅原 加島 木戸 酒谷 武田 田中 中村 藤本 堀江 吉尾 渡辺	12
会 二	吾妻 11	男	○石橋 奥村 乙井 沢田 竹中 森 谷井	7
会 二	吾妻 12	男	○猪砂 中野 藤井 松田 森本 吉見 吉本	7

棟名・階	室名	性別	氏名(○印は室長)	人員
会二	吾妻1	3男	○浅生 大野 海妻 魁島 竿尾 佐藤 光田	7
慶二	楓1	男	○市口 小幡 定平 野口	4
慶二	楓2	男	○光井 伊沢 中道 芳中	4

10組

棟名・階	室名	性別	氏名(○印は室長)	人員
会二	吾妻2	男	○菊田 喜多 笹原 山口 梨木	5
慶二	遠山3	男	○西 山田 はかま田 大室 井本 堺	6
慶二	朝霧1	男	○森 貞永 坂本 仲谷 吉田 尾木	6
慶二	朝霧2	男	○邑上 高根 中山 宮川 岡村 井町	6
慶一	湖畔1	女	○古川 家口 柴田 木村 亀井 森岡	6
慶一	湖畔3	女	○大槻 北野 植田 松村 増田 森田	6
慶一	紺碧1	女	○入倉 鶴田 由井 谷口 萩原 井関	6
慶一	紺碧2	女	○田川 木下 大中 高橋 古酒	5

11組

棟名・階	室名	性別	氏名(○印は室長)	人員
会二	吾妻3	男	○山野 倍川 庄司 黒住 清水	5
慶二	朝霧3	男	○八尾 布内 寺田 波止 岡崎 本庄	6
慶二	朝霧5	男	○小出 梶原 平尾 井手 吉井 高橋	6
慶二	朝霧6	男	○北井 和田 田中 中居 片山 来栖	6
慶一	深雪1	女	○堀川 北野 山本 塚由 雲 浦 石橋 丸橋 西田 天城	10
慶一	夕霧2	女	○林 小野 中尾 安井 山上 藤井	6
慶一	夕霧3	女	○中桐 浦田 吉垣 谷 堺 西野 中須賀	7

10月22日 堺屋旅館

7組

棟名・階	室名	性別	氏名(○印は室長)	人員
別館	山吹	男	○渡辺 井上 池北 芋本 太田 岡田 北野 久保 熊岡 小町 田中 東条 富木 浜岡 林 藤本 丸岡 前田 松宮 米田	20
別館一階	白樺	女	○石橋 青木 江崎 織田 我有 黒山 杉浦 篠 道旗 森江 米谷	11
別館二階	月の間	女	○土井 楠本 山田 山本 中村 岡本	6
別館二階	雪の間	女	○吉村 服部 津田 田中	4
別館二階	花の間	女	○松本 影山 大浦	3

8組

棟名・階	室名	性別	氏名(○印は室長)	人員
二別館二	羽衣	男	○津地 寺田 二宮 小鶴 山下	5
二別館二	菊水	男	○梅崎 加藤 山沢 岡田 本松	5
二別館二	北斗	男	○金井 尼川 山中 清水 染川 永田 上田 道下	8
二別館二	紅花	男	○武田 高橋 松村 福井 田中	5
別館一階	石楠花	女	○小野 杉本 西本 白須 中田 斎藤	6
別館一階	駒草	女	○鍋本 小西 小原 戸所 加島 山口	6
別館二階	藏王の間	女	○吉田 和田 塚田 今釜 馬頭 尼崎 松本 横山 牧野 川島 池田	11

9組

棟名・階	室名	性別	氏名(○印は室長)	人員
本館	湧泉	男	○大野 田中 田和 堀江 森	5
本館	雲海	男	○芳中 市口 神谷 光井 光田	5
ホテル	312	男	○武田 石山 乙井 木戸 森本	5
ホテル	401	男	○吉尾 加島 魁島 定平 野口	5
ホテル	402	男	○吉見 伊沢 小島 竹中 中村	5

棟名・階	室 名	性 別	氏 名 (○印は室長)	入員
ホテル	403	男	○藤井 酒谷 沢田 中野 中道	5
ホテル	405	男	○渡辺 浅生 石橋 猪砂 梅原 奥村 小幡 海妻 竿尾 佐藤 谷井 藤本 松田 松原 吉本	15

10組

棟名・階	室 名	性 別	氏 名 (○印は室長)	入員
新館	弥 生	男	○西 はかま田 大宝 井本 塚	5
新館	銀 嶺	男	○坂本 仲谷 森 貞永 吉田 尾木 山田 邑上	8
新館	千 才	男	○高根 宮川 井町 岡村 中山	5
新館	明 星	男	○菊田 喜多 笹原 山口 梨木	5
別館	松 の 間	女	○北野 増田 家口 亀井 古川 入倉 森岡	7
別館	竹 の 間	女	○木村 高橋 森田 井関 大滉	5
別館	桔 梗	女	○木下 由井 谷口 大中 田川	5
別館	すずらん	女	○柴田 植田 松村	3
別館	あ や め	女	○萩原 古酒 鶴田	3

11組

棟名・階	室 名	性 別	氏 名 (○印は室長)	入員
本館	山 彦	男	○山野 皆川 庄司 黒住 清水	5
本館	長 生	男	○北井 和田 田中 中居 片山	5
第二別館	宝 来	男	○小出 梶原 平尾 本庄 井手 吉井 高橋 来栖	8
第二別館	常 般	男	○八尾 布内 寺田 波止 岡崎	5
別館	梅 の 間	女	○中桐 谷 塚 西野 中須賀	5
別館	鶴 の 間	女	○安井 林 小野 中尾	4
別館	亀 の 間	女	○山上 浦田 藤井 北野 山本 吉垣	6
別館	芙 蓉	女	○堀川 浦 天城 石橋 雲 塚由 丸橋 西田	8

10月23日 ホテル奥仙台

7組

棟名・階	室 名	性 別	氏 名 (○印は室長)	入員
G	やまゆり	男	○太田 浜岡 米田 東条 丸岡 林 芋本 富本 前田 松宮	10
H	しらかば	男	○渡辺 熊岡 小町 久保 藤本 池北 田中 北野 井上 岡田	10
B 2	312	女	○土井 楠本 吉村 山田 山本 服部 中村 岡本	8
B 2	313	女	○津田 田中 松本 影山 大浦 石橋 青木 江崎	8
B 2	315	女	○織田 我有 黒山 杉浦 簡 道旗 森江 米谷	8

8組

棟名・階	室 名	性 別	氏 名 (○印は室長)	入員
C 2	202	男	○金井 尼川 清水 道下 上田 山中	6
C 2	203	男	○山沢 岡田 染川 永田 本松	5
C 2	205	男	○武田 田中 福井 松村 高崎 梅崎	6
C 2	206	男	○加藤 津地 寺田 二宮 山下 小橋	6
A 2	101	女	○斎藤 尼崎 池田 小野 杉本 塚田	6
B 1	301	女	○中田 和田 小西 戸所 西本	5
B 2	308	女	○川島 白須 松本 横山 山口	5
B 2	311	女	○吉田 鍋本 馬頭 今釜 小原 加島 牧野	7

9組

棟名・階	室 名	性 別	氏 名 (○印は室長)	入員
A 2	105	男	○大野 乙井 海妻 神谷 亀島 佐藤 中野	7
A 2	106	男	○堀江 木戸 定平 沢田 武田 中村 藤本	7
A 2	107	男	○市口 加島 中道 藤井 森本 吉尾 吉見	7
C 1	207	男	○石橋 浅生 伊沢 酒谷 光井 光田	6
C 2	208	男	○梅原 猪砂 小幡 谷井 森 渡辺	6
F	からまつ	男	○田和 石山 奥村 小島 竿尾 竹中 田中 野口 松田	12

棟名・階	室名	性別	氏 名 (○印は室長)	人員
			松原 芳中 吉本	

10組

棟名・階	室名	性別	氏 名 (○印は室長)	人員
B 3	大宴会場	男	○井町 井本 大室 尾本 岡村 菊田 喜多 堺 坂本 篠原 真永 高根 仲谷 中山 梨木 西 はかま田	23
A 2	102	女	○大中 木村 入倉 大規 森田 谷口 柴田	7
B 1	302	女	○高橋 古酒 田川 亀井 森岡 古川 増田 井関	8
B 1	303	女	○家口 木下 松村 植田 由井 亀田 萩原 北野	8

11組

棟名・階	室名	性別	氏 名 (○印は室長)	人員
C 1	210	男	○八尾 布内 寺田 波止 畑崎 本庄	6
C 1	211	男	○北井 和田 田中 中居 片山 来悟	6
C 1	212	男	○山野 皆川 庄司 黒住 清水	5
C 2	201	男	○小出 井手 平尾 高橋 吉井 鶴原	6
B 1	305	女	○安井 浦田 吉道 小野 林 山上 中尾 藤井	8
B 2	306	女	○中桐 中須賀 堺 谷 西野 北野 山本	7
B 1	307	女	○堀川 浦 天城 石橋 雲 塚 丸橋 西田	8

旅 行 中 の 注 意

修学旅行の意義をよく理解し、規律ある行動をとること。

1. 服 装

服装については、行事の性格上、制服とする。

但し、次の場合には私服も差支えない。華美にならぬよう、また寒冷地では夜間、保温に注意すること。

ア 宿舎内(ネグリジェは禁止する)

イ 宿泊地での認められた外出時(上着のみ制服着用のこと)

ウ 五色沼ハイキング参加時(ハイキングが終ってバス乗車後、次の下車時までに制服上着々用のこと)

エ 帰路、東京駅発車後、京都駅通過までの車中

2. 集 合

(1) 集合は迅速にすること。

(2) 集合時、各班長は班人員を確認し、クラス総務に報告すること。

クラス総務はクラス人員確認後、担任の先生と、A団小井先生、B団高橋先生に報告すること。
志野

3. 宿 舎

(1) 旅館への要望は勝手にしないで、室長から先生に申出すること。

(2) 下足については、宿舎入口でビニール袋を受取り、自室に保管すること。

(3) 各室長は入室後、本部に集合し、指示をうけること。

(4) 貵重品については、各室長がとりまとめ、フロントに預けること。

(5) 各室の設備について、電話や、施錠された浴室、冷蔵庫を使用しないこと。

(6) 外出は自由時間内は認める。但し、広瀬川温泉では危険防止のため禁止

する。

外出時は制服上着を着用し、各自の下足を用いること。

風紀に注意すること。

8時以後の外出は禁止する。

(7) 食事は放送によって連絡するが、迅速に集まること。夕食は6時から、朝食は8時からの予定である。

(8) 湯茶を翌日携行したいものは夕食後、水筒を所定の場所に置き、翌日受取ること。特に、浄土平での昼食には湯茶を準備するのが望ましい。

(9) 各団のレクレーションは係の指示に従うこと。

各クラスのレクレーションは各団総務に連絡し、場所等を調整すること。

点呼時間までに解散すること。

(10) 入浴の場所・時間についてはその都度指示する。

(11) 各室点呼は9時とし、その後、各室間の移動は、健康管理のため禁止する。

就寝は10時、消燈は10時30分とする。

(12) 起床は7時とする。

(13) 外部の人（親戚・友人、等）との面会は、必ず、事前に先生の許可を得ること。

面会場所は、原則として、宿舎内とする。時間は夜9時まで。

外泊は認めない。

4. 健 康

(1) 健康については各人、よく注意し、特に、寒冷地ではうす着にならないこと。

(2) 各人、よく使用する薬は自分で持参すること。

(3) 健康保険証の番号を忘れずメモしておくこと。

健康管理については別項を参照すること。

5. 所 持 品

下記のリストを参考にし、できる限り荷物を少なくすること。

記名できるものには記名しておくこと。

カバン、風呂敷類、ビニール類、

下着、セーター1枚、パジャマ

洗面具、タオル、ハンカチ、チリ紙

折りたたみ傘、防寒具

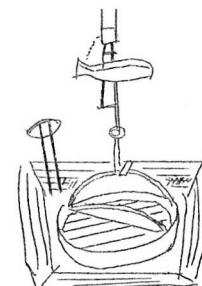
水筒

生徒手帳、筆記用具、裁縫用具

6. そ の 他

(1) マージャンは宿舎、車内を問わず、他生徒の迷惑を考え、禁止する。

(2) 所持金は5千円以内にとどめること。



修学旅行における健康管理について



大阪府立生野高等学校修学旅行
保健委員

皆さんの修学旅行が楽しく過ごせるように、また一人の病人や事故発生のために、他の人々の迷惑にならないように、各自次の点について特に注意しましょう。

I 旅行前の準備

1. 身体的異常のある者は旅行までに治療しておくこと。
(耳・鼻・眼科疾患・むし歯・その他について)
2. 旅行前日は、睡眠不足や無理のないように体調をととのえておく。
3. 身体的異常(ぜんそく・貧血症・鼻出血など)をおこしやすい者は、予め主治医によく相談して指示をうけておく。

II 旅行中の注意

1. 旅行当日、集合場所において、下痢、発熱症状のある者は直ちに担任の先生まで申し出ること。
2. かわった土地に行くと、神経が緊張しがちになり、それが疲労、草酔い便秘などをおこす原因となりやすい。
旅行中は睡眠、休養を十分にとり神経を休めるように心がけること。
3. 車に酔いやすい者は乗車30分前に酔い止めの薬を服用のこと。(薬は各自持参するように)
4. 水筒にお茶を入れ必ず用意する。
旅行中は水分の不足になりやすく、これが疲労、便秘の原因となる。
5. 靴は、はき馴れたものをはく。
靴ずれがひどくなると、リンパ腺炎をおこすことがある。
6. 手ふきを用意し、たべる都度手をよくふく。
(ビニールの袋に消毒液にひたした手ぬぐいまたはガーゼを入れておくとよい)
7. 間食は菓子類にかたよらず、果物類も準備する。
(ビタミンの補給、便秘の予防にもなる)
飲み物を飲用する場合、ジュース、コーラよりも牛乳にした方がよい。
(カルシウムなどスタミナをつけるミネラルの補給となる)

東北の旅

東北地方は昔、みちのく(道の奥)といわれ、荒ぶる跋夷の住む、遙かな異境の国として恐れられ、また憧れの対象ともなっていた。そこには古歌の歌秋として勿来、自河、念珠ヶ閑や、塩釜、松島等があり、石川啄木、宮沢賢次、石坂洋次郎等の方言を交えた作品もある。しかし今では、昔思われていたような辺境で暗く厳しいイメージはだんだん消えつつあり、日本列島改造云々にともなった総合開発も進められ、前途は洋々たるものと思われる。しかし、そこには未知への永遠の憧れを感じずには居られない。

東北の地勢は、中央部に奥羽山脈がはしり、東に北上、阿武隈の峰々、西には出羽山地の山々が続いている。奥羽山脈には那須火山帯が附随して、多くの温泉、火山をともなっている。出羽山地には鳥海火山脈が附隨し、岩木山、月山、鳥海山等の火山がある。川では北上、阿武隈、米代、最上、雄物等があるが、大平野は少ない。

気候は一般的に「寒い」と思われているが、西岸と東岸では差が著しい。東岸は親潮黒潮の潮目があり、冷風や濃霧の為冷害となることが少なくない。西岸は冬季の雪が特性で、鳥海山、月山等では晩春まで雪が成り、春スキー地として知られている。また日本の最高気温が山形の40・8度であることにも、注意して頂きたい。

COFFEE BREAK 東北本線は、上野-青森間739.2

kmを結び、日本の国鉄線では最も長い。それだけに、この線を走る列車には、変りだねも多い。たとえば、上野から常磐線へ入って、仙台通り青森へ行く「ゆうづる2号」は、平-青森間538.7kmをノンストップで走り、仙台にも盛岡にも八戸にもとまらない。これは、夜行なので、乗降客が少ないためである。

農業では冬季の雪が多い為、单一米作が盛んであるが、現在では多角経営化が進み特にリンゴ、ナシオウトウ等の生産が多い。また広大な

修学旅行に行くと、先生方を悩ますのが事故。交通事故・食中毒・伝染病・非行・盗難・特に、飲酒・喫煙は年中行事。ただし学即第8章第26条第3項の④に、「学校の秩序を乱し、その他生徒としての本文に反したもののは退学。」とあるので覚悟されてからどうぞ。

原野を広いた牧畜も進んでいる。

漁業では太平洋岸の三陸沖が潮目に当たり、漁種魚類も豊富である。また遠洋漁業基地としてもぎわっている。

山林はゆたかで、特に古来有名な秋田スギや青森ヒバの名は全国に馳いている。

尚東北を走る国鉄急行をあげると、もがみ、千秋、きたかみ、五葉、月山一号、よねしろ、

あがの等がある。

仙 台

仙台は「三五反の帆をあげて、ゆくよ仙台石巻」と歌われた伊達62万石の城下町であり、現在東北1の大都市である。伊達藩初代政宗は片眼ではあったが知略武勇秀れていたので、独眼竜との異名を持っていた。仙台の地名は、中世ここにあった城に千体仏があった為「千体」と呼ばれ、いつの頃からか「一千代」に変り、更に慶長5年(1600)に政宗がここに城を築いたときに漢詩よりきた「仙台」に変えたという。以来370年余たった今日でも戦災に会ったとはいえ、城下町のおもむきも残している。以前は「杜の都」とうたわれ、三方を山に囲まれ広瀬川のせせらぎには河鹿が鳴き、東北大學他十指に余る大学をかかえている。また当地の七夕祭りは、非常に有名で、各商店が思い思いの趣向をこらして飾りついているが、廻ったものになると数10万円以上かかるそうだ。市内には、三沢初子(政岡)、林子平、支倉六右エ門等の墓、芭蕉碑、青葉城跡、東北大等がある。仙台の土産は袴の代名詞となっている仙台平(無形文化財)仙台ダンス、埋木細工、塗物(玉虫塗、青貝塗)等があるがかなり高価である。安易なものでは伏見人形の流れくむ堤人形、松川ダルマ、政岡豆、佃カマボコ、こけし、仙台味噌等がある。

青葉城は前の通り、伊達政宗に依って築城され、伊達藩歴代の居城であった。

現在城跡のふもとに東北大學教養学部や記念大講堂がある。城跡一帯は名にふさわしく深々と木立におおわれ、所々に石垣が残っていて往時をしのばせる。建造物は明治初年に取壟され、現在再建された隈櫓一字を残すのみであるが眺望が良く仙台市を一望のものにみわたすことができる。天守台跡には、「独眼竜政宗」の騎馬像があり、その傍ろに有名な土井晩翠の「荒城の月」の詩碑がある。

1. 春高楼の 花の宴 巡る盃 影さして
千代の松ヶ枝わけ出でし 昔の光今何処
2. 秋 営の霜の色 鳴き行く雁の數見せて
植うるつるぎに照りそいし昔の光今如処

(以下略)

土井晩翠は当仙台生まれで、旧制第二高校に学んでいた。また伊達家にまつわる話として伊達争動がある。江戸時代初期三代藩主綱宗が悪所通いの不品行のかどで勤慎になり、わづか三才の綱村が跡目相続をした。このとき綱村後見として、伊達兵部とその腹心原田甲斐一派と伊達安芸一派との勢力争いで、寛文11年(1671)安芸の訴により幕府の審問にまで至った。審問中甲斐が安芸を殺害した甲斐も討たれ、幕府は兵部父子を流刑に、その他もそれぞれ処分した。これを脚色した歌舞伎が「伽羅先代伝」である。これは典型的なお家物で時所を室町の足利御殿に比している。中でも上便を前に、我が子千松を犠牲にして幼君を守る「飯焚き」の乳人政岡の苦忠は、よく知られ幾多の人の涙をさそって来たのである。また「床下」での仁木彈正の妖術による大ねづみもよく知られている。これを小説化してそれまで大悪とされていた甲斐を異った観点からとらえ成

——1分間に地球上ではどのくらいのことがおこっているか?——
西ドイツの科学者がこんなデータをだしている。(ただし昭和37年のデータだからそのつもりで)まず1分間で、宇宙空間から6000個の流星が地球に降りそいでいる。600立方メートルの雨が陸地に降り、人間が100人死んでいくかわりに、114人が生まれる。さらに500万本のタバコが煙と化し、11万部の新聞が売れる。そして4000トンの食料が人間の胃袋の中へと詰めこまれる。等々。

—— 沿線の名産と特殊弁当 ——

白河——

チキンランチ、鰐すし、関のすし、関の栗めし、だるますし、南湖豆、白河、夜舟、

郡山——

うなぎ、てんぶら御飯、山菜ちらしずし、カツライス弁当、薄皮頭、三春駒、三万石、

福島——

焼肉弁当、煮こみカツ弁当、笹りんどう

仙台——

わかとり弁当、うなぎめし、またけ弁当、宮城野弁当、かにすし、栗めし、七夕すし、仙台豆、三色最中、鶴みそ、笹蒲はこ、しおがま、

等々——

功したのが、先年 N H K で放映された山本周五郎氏の「桟の木は残った」である。

松島海岸（端嚴寺、五大堂）

松島はいうまでもなく日本三景の一つで、濃藍色の海に緑松の茂った小島が点々と、しかも変化をもった姿で浮かんでいる。ここは古来「塩釜の浦」と呼ばれ伊達物語には「わがみかど 60 余国の中に塩釜^{ガマ}という所に似たるところなかりけり」と見え、仙台湾中央部に当たり、俗に八百八島といわれる千姿万態の島々が散らばっている。伊達政宗は慶長 9 年（1604）に五大堂、端嚴寺、観瀬亭などを建てて眺めをそへて、天下に盛名をはせている。このように伝えているから芭蕉も「松島の月」がまづ心にかかったのだろう。尚、芭蕉が当松島の絶景に驚歎の余り「松島やああ松島や松島や」と呼んだといわれているが、これは單なる俗伝らしい。端嚴寺は東北一の禅寺で老杉茂り昼なお暗い境内には豪華壯麗なる建物がたてられている。この寺は伊達家菩提寺で、初代政宗が紀州熊野高野から良材をはこばせ 4 年を費して建立したという。五大堂は大同 2 年（807）坂上田村麻呂が蝦夷征伐の折建立し、後茲覚大師が五大明王を安置してから五大堂となった。現在のものは政宗修築のもの。



- 32 -

◎民謡斎太郎節（大漁歌込）

松島のサヨト端嚴寺ほどの寺もないトエー

アレワエーエートソーリャ大漁だエー

前は海後は山で小松原（くり返し）

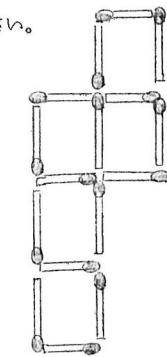
◎民謡さんさ時雨

1. さんさ時雨か萱野の雨か 音もせで来て
濡れかかる。ショーガエナーメでたいめで
たい（以下同じ）

2. この家座敷はめでたい座敷鶴と亀とが舞
い遊ぶ（ 同 ）

—— 何分で、でききますか ——

16 本のマッチ棒をならべて、図のように 5 個の正方形をつくって下さい。さて、このうち 2 本を動かして、正方形を 4 つにしてください。



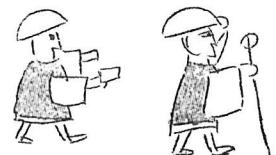
山寺（立石寺）

山寺は正式名を宝珠山立石寺といい、今を去る約 1200 年前 覚大師が開いた東北有数の靈場である。最盛期には僧坊 300 以上、1400 石の朱印地をうけ、天台宗寺院として比叡山別寺として勢力があった。江戸時代芭蕉が「さや 岩にしみ入る 蟬の声」と詠んだことはあまりにも有名。山腹には多数巨岩が露出し一種奇観を呈している。その岩を利用して胎内くぐり（ここでの胎内くぐりは和風ロッククライミングのようなもの）や対面岩、百丈岩、天華岩等がある。また芭翁に因んで蟬時雨が降るようで、末だ句境を残している。

山形市は城下町であるが、藩主変転が多く、また「紅花、あおそ」の市場として栄えて来た。山形県の土産は鋤物、天童将棋駒、こけし、のし梅、さくらんぼ、米沢紺、いづめこ人形、御殿まり、洋梨、柿、菴野一刀彫等である。米沢市は上杉 15 万石城下町であり、天童は将棋駒や温泉で有名。

◎民謡花 音頭

めでためでたの若松さまヨー枝も
チヨイチヨイ栄えて葉も繁



知っていますか？東北出の文化人	
福島県	花田清輝（作家）
	草野心平（詩人）
宮城県	阿部静枝（評論家）？
	扇谷正造（ジャーナリスト）
	志賀直哉（作家）
岩手県	金田一京助
秋田県	石川達三（作家）
青森県	石坂洋次郎（作家）
	棟方志功（版画家）
	淡谷のり子（歌手）
	etc.

藏王温泉

硫化水素含有率、41～55度で、皮ふ病創傷、眼病、神経痛によくきくから該当者はよく入る方がよい。但し湯は硫黄分が強いので皮ふ病には良いが石鹼がつかえないのはもちろん、あまり肌をこす

ると荒れて
しまうので
御用心。この温泉は古来元酢川温泉、最上高場と呼ばれ、いまを去る



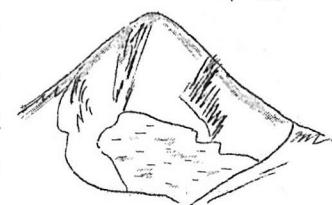
1100年前の古記録にその名を止めていたるぐらゐ古く、神威の現れとして信仰の対象となっていた。温泉発見の伝説では、日本武命東征の折その家臣吉田の多賀由が敵の毒矢に当たり全身腐爛してしまった。その時命は竜山麓に彼を残されたが、或る日彼は眼下に一条の白煙を見いだしそこへ行ったところ、そこは岩間よりわきでる酢っぱい温泉だったという。多賀由ここに入湯するや、心身変して全快したという。温泉が酢っぱかったので酢川温泉、多賀由が発見したので高湯（多賀由）温泉といわれたという。

藏王刈田岳（お釜）

元來藏王山には藏王という孤立の主峰をもつてない。土地の人は観光客に「藏王はどの山ですか」と尋ねられると最高峰熊野岳（1840メートル）を指さすという。しかし何といっても五色岳を中心火口にして外輪山の熊野、刈田岳がそびえているのが藏王のシンボルであるという。お釜は五色岳を半分爆発

させて、その跡にできた火口湖であり、四季紺碧の水を湛えてはいるが、噴出物の為一木一草もない荒涼たる禿山である。御釜は直径360米余のほぼ円型で、最深40米程で水質は酸性の為ほとんどなにもない。藏王の由来は吉野金峰山の藏王権現を天武帝（680）の時に移しまつたためという。また藏王の爆発歴は寛永元年（1624）

明治27、8年、大正7～12年に爆発し、五色岳東側では今でも噴気を出している。藏王といえば樹氷であり、年間10万余のスキーヤーが殺到する冬のメッカである。樹氷は昔からあったが、そこまで行くには吹雪が激しく、獵師以外は誰も発らなかった。また獵師たちも樹氷のことを雪の坊（雪の怪）とか雪コブとか称していた。一般人でこれを発見したのは大正3年の山形師範並連隊一行である。



赤湯

含硫化水素弱食塩泉68度で、胃腸、婦人病、じ疾にきく。温泉街はにぎやかで、秋の菊人形有名である。

天元台

西吾妻山腹1350mの高原で、夏の避暑やキャンプ、ハイキング、スキーに最適。また5月上旬まで春スキーができる。紅葉は10月中旬である。

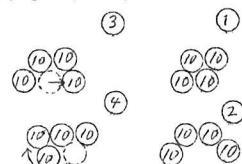
磐梯高原

明治21年の磐梯山大爆発によって生まれた大小多数の沼と砂原、小野川、秋元の三湖を中心と

— ひとくちメモ —

若かりし日のカントは、大好き彼女にプロポーズしようかと思ったが、この大哲学者は、もしもNO.いやNeinといわれたら、恋人と友人ととの、ふたつを同時に失うおそれがあるから、それをやめ、したがって生涯を独身でとおしたという。とかく、偉大な学者の考えることは常人では理解できないことが多いものである。

4枚のコインを①図のようにならべて下さい。問題は、これをならべかえて④図のようにすることです。もちろん③図のように下の1枚を右に動かせば、すぐにできてしまいます。これじゃあつまんないので、コインを動かす時に④図のようにからず他の2枚のコインにつくようにして下さい。



各種選択コース

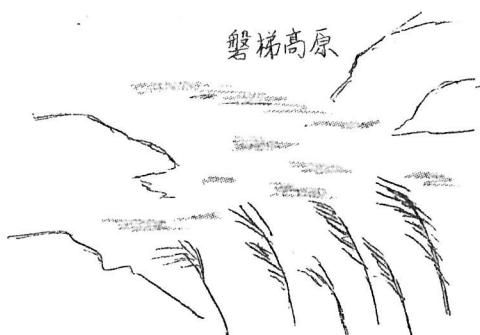
①五色沼ハイキングコース

桧原、小野川湖の南に散在する大小200余の沼をいい、その一つ一つが、藍に、グリーンに、コバルトブルーに、エメラルドにと神秘的な美しい色をみせていて、とても絵具ではあらわせない。これは明治21年磐梯山大爆発の結果である。沼の主なものは11ほどあり、昆沙門沼、みどろ沼、天沼、るり沼、弥六沼等がある。そしてこれらの沼をぬうように林道(約3.5km)が通り、散策する人の便を図っている。土地の観光案内パンフレットの秋の所には「五色沼の畔をたどる時、木の葉がはらりと肩におちかかる。「静と動」「真紅と藍」の対照の極地をみせる自然の美のメロディは採りつきぬ感銘を与える。」とある。また弥六沼畔には中山義秀の歌碑が建てられている。

②桧原湖

磐梯高原の中心であり、できたのは五色沼同様21年である。南北に細長い湖で湖の南半分は大小無数の小島があり、風景に趣きをそえている。湖の中に

した高原でつい最近までは裏磐梯として知られていたが、今は磐梯高原と名を改めて、本家磐梯山をしのぐ程人気のあるところである。高原面積は広いが、普通桧原湖が中心とされている。宿泊所裏磐梯観光ホテルは桧原湖南岸にある。



はもと部落だったときの神社の鳥居等が残っており、爆発当時のすさまじさを語りかけてくれる。10月の紅葉のころの桧原湖の美しさは、格別といわれる。尚明治21年7月15日の爆発は、世界的な大爆発で約17億m³の土量即ち、小磐梯山の大半を吹きとぼし、5ヶ村11部落460戸を覆い、477人の人命をも奪う大惨事であった。しかしこれが桧原湖や五色沼の美しさを作ったとは皮肉な話である。

③会津若松、鶴ヶ城、飯盛山、野口記念館コース

裏磐梯から会津若松方面にでるには、「宝の山よ」と唄われ、会津のシンボルである磐梯山のよこを通るのである。磐梯山は別名会津富士ともいわれ、その美しい裾野は筆舌につくしがたいといわれる。会津若松は1384年以来幾多の領主が変転していたが、最後の領主松平氏が一番有名である。その居城は鶴ヶ城といわれる名城で、維新の折松平容保以下一藩が龍城したことは有名である。維新後城はとりこわされたが、現在また天守閣が復元されている。また城跡には土井晚翠の荒城の月の碑が立っていて、情趣をさそう。飯盛山は戊辰の役の悲語白虎隊の墓があるので有名。新政府に反抗した会津藩は全藩士を4隊にわけて戦った。このとき最年少の16~7才の少年で編成された白虎隊は戸の口原の戦いで敗れ飯盛山にたどりつき、生き残った少年19人はここで切腹し、壮烈な最期をとげたという。現在墓所と遺品や史料を展示した記念館がある。野口記念館は野口博士の貴品を展示しました、生家も保存している。猪苗代湖の美しさも有名。

郡山

福島県の中央部にあり、安積平野の中心地。安積疏水ができてから、その水力による工業が比較的発達している。

福島県の名産は、会津塗、赤ベコ、三春駒、相馬焼、こけし、りんご、三春人形、なし、もも、うす皮まんじゅう等がある。

◎民謡会津磐梯山

イヤー会津磐梯山は宝の山よ

世に黄金のエーマタなりさがる

東山から日にちの便り

行かざなるまい顔見せに

田舎坂でも上がれば下がる

伊達政宗公

独眼竜政宗（青葉城築城）338年ぶりに子孫と対話。

去る10月2日、旧国宝瑞鳳殿地下で伊達政宗公の遺体が、同殿再建期成会によって、姿を表わした。遺体は、凝灰岩の石室に入れられていた。

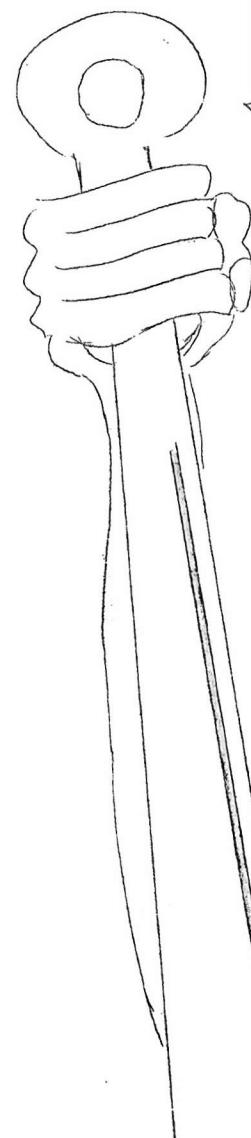
この石室の状態は、徳川二代将軍秀忠より立派なつくりであった。

内部は、上から見ると、頭がい骨が見え、座った形で、側にはカゴのかつき棒らしい太い材木、また手前のすみには、よろいかぶとらしいものがあり、さらにその上には、脇差、側には太刀が立てかけられていた。

政宗公が姿を現わすと、伊達家17代当主貞宗氏ら子孫は思わず合掌した。

なお、遺体・副葬品は完全に保存処置をして、現場近くの伊達家の菩提寺瑞鳳寺に移す予定である。

民謡集



民 話 集

◎ 手長足長 ◎

昔、磐梯山は、病臓山と呼ばれ山中に「手長足長」という夫婦の化物が住んでいました。

夫の手長は、その長い手を向いの博士山へ伸ばし会津盆地を暗くし、妻の足長は、猪苗代湖から水を吸いあげて、雨ばかり降らしていました。

このことを聞かれた弘法大師は、法力と計略によって、これらを鉢に封じこめ磐梯山にうめました。

以来700年で法力も薄れた明治21年、2匹は眠りからみざめ、大あくびをしたので、磐梯山が爆発したと信じられています。



- 1 民話 表紙(一面さし絵)鬼
- 2 手長足長(下半分さし絵)
- 3 だらく地蔵(下半分さし絵)
- 4 てんぱ競べ
- 5 山おやじ
- 6 山おやじさし絵(一面)
- 7 山おやじ(下五行ある)
- 8 蔵王のちょう
- 9 蔵王のちょうさし絵
(下五行藏王のちょう)
- 10 蔵王のちょう
- 11 まほう使いの文王
- 12 まほう使いの文王
- 13 まほう使いの文王
- 14 まほう使いの文王

◎ だらく地蔵 ◎

昔、山奥に小さな石地蔵がありました。その子供は、その地蔵をすもうの相手にしたり首にナワをつけて引きずったりしておもちゃにしていました。それを見た六兵衛さん急いでお堂をつくり格子をつけて、「よいことをした。きっと御利役があるだろう。」と思っていたのに、その晩から熱を出して寝こんでしまいました。

そして夢枕にその地蔵が立って

「毎日子供と遊んでいたのに邪魔をして」とお怒り御様子。

急いで格子を取って遊べるようにすると、

六兵衛さんの熱は下がりました。

それから誰いうともなくこの地蔵を「だらく(山形方言。ものぐさ、なまけもの)地蔵」と呼びました。



◎ てんば競べ（はら競べ）◎

昔、大和にはら吹き男がいて、ひとつ諸国を回ってはら吹き修業をしようと
鎌倉迄やって来ました。すると、
「これより右は、はら吹き村」
という道標が立っていたので、早速そこへ行きました。
その道端にきたない身なりの子供がいましたので、
「おれは、大和からほらくらべに来た。案内してくれ。」
といいますと、子供の言うに
「おっ父さんは、富士山がでんぐりけえるていうで、線香3本もってつっかい
棒にいって留守だ。夕方には帰るベエ。」
と。そこで、男は
「おっかさんは？」と聞くと
「いや、いねえ。おっかさんは、ゆうべ琵琶湖の水がもれだしたで、止めに來
てくれていうんで、と漁3合持って出かけた。」
という返事。
男は少々めんくらったが、負けじと、
「それはそうと、奈良の六仏堂の大釣鐘が、せんだっての大風で東の方へ飛ん
だが、この辺には落ちなかつたか。」
と聞くと子供は、
「あゝ、それなら納屋のかどのくもの巣にひっかかって、ワーン、ワーン鳴っ
て、3日ばかりうるさかった。だども今は、どこさ行つたことか。
また吹っとんで行つてしまつた。」
と答えました。
さすがの男も、
「子供でこれじゃ、親は…。」とさっさと帰りました。（福島県）

◎ 山おやじ ◎

むかし、むかし。
旅の男がナ、山ン中で道にまようてしもうたんじゅ。
秋の日はみじかい。もう、あたりは、暗うなつたし、どうにもさむうてなら
ぬ。
「ええっ、ままよ。ひとつ、火でもたいてあつたまるとしょうか。」
男は、そちらあたりのかれ枝や、おち葉を、かきあつめてくると、火をもや
しはじめた。
パチパチッ パチパチッ
火は、ようもえたワ。
男は、火にあたりながら、
(いまごろ、くにの女房や子どもたちは、どうしておるかなあ)
と、考えておった。
すると、たき火のむこうから、とつぜん、
「おまえはいま、女房や子どもが、どうしておるかなあと、思うとるな。」
と、声がした。
びくっとして、顔をあげると、なんやら、みょうなものが、ゆらゆらと、
たき火のむこうにうごいておるワ。よう見ると、そいつは、ひげもじゅで、目
が1つ。その1つ目で、じいっと、こっちをにらんでおるんじゅ。
旅の男は、(こりゃ、また、きみょうなばけもんがでたわい)と、思つてお
るとナ、ばけもんは火にあたりながら、
「おまえは、きみょうなばけもんがでたわいと、思うとるな。」
と、いうた。
旅の男は、(ははあ、こやつ、山おやじというばけもんだな)
と、思つた。
すると、たき火のむこうで、

「おまえは、おれのことを、山おやじというばけもんだなと、思うとるな。」
と、また、いいあてた。

さすがの旅の男も、

(やれやれ、なんてこいつは、気味のわるいやつじゃ)

と、思ふた。

すると、また、(ばかもんは、ようもえておるたき火のむこうで、

「おまえは、おれのことを、気味のわるいやつじゃと、思うとるな。」

と、いいあてた。

すると、そのときじゃ。

落ち葉ン中から、いきなり、

ボーン

と、なにかがはねたワ。

そしてヨ、山おやじのかおにバシーッとあたったんじゃ。

山おやじは、びっくりして、とびあがったわい。そして、一本足でピューン
と、とんだかと思うと、もう、どこへやらいてしもうた。

(はて、山おやじがにげだすほどのもんは、なんじゃろうかい)

と、たき火を見るとナ、いま、はねたのは、なんと、山栗じゃったそうな。



◎ 蔵王のちょう ◎

むかし、むかしのお話じゃ。

ひとりの侍がナ、みちのくの春をたずねて、旅をしておったト。
里をすぎて、藏王のけわしい山道にさしかかったころは、もう、だいぶ、歩
きつかれておった。

「どこかで、ひとやすみしたいものだが………」

と、あたりを見まわした。すると、林のおくにナ、一けんのあばら家が見えた
のじゃ。

トン トン

戸をたたいたが、返事がない。

トン トン トン

たたいても、たたいても、物音ひとつ聞こえてこん。

「もしかしたら、人の住まぬ家かもしだぬ。」

侍は、しづかに、申へはいっていった。

「おお、これはまた、なんとひどい荒れようじゃ。」

そこらじゅう、くもの巣だらけのあばら家じゃ。すいぶんとながいあいだ、
人の住んだようすがない。

「これでも、野にねるよりは、ましというもの。夜露にぬれることもなし…」
つぶやきながら、ふと見ると、広い土間のむこうの障子が、かすかにあかるい、
侍は、障子のそばへよって、破れた穴から、そうっと中をのぞいて見た。とた
んに、はっと息をのんワ。

ちょうだ……

うすよごれたへやの中に、たくさんのちょうが、はねを光らせて、むらがり
とんでおった。紫のちょう、赤いちょう、黄いろいちょう、まっ黒なちょうに
白いちょう………

なん百なん千というちょうが、まばゆくかさなりあって、ひらひらと舞いく

るっておったのじゃ。

それがんまりきれいなので、侍は、しばらくのあいだ、ぼんやりと見とれ
ておった。

(いったい、これは、どうしたことであろう)

ふしぎに思った侍は、しづかに障子を、開けた。

すると、なんの羽音もなく、ちょうたちは、轟わりと、いっせいに舞いあ
がって、まるで、美しい が、消えるように、あっという間に、とびさってし
もうたワ。

と、そのとき、侍はナ、思わず、

「おおっ。」

と、きけんで、あとすきりした。ぶるぶるっと、からだじゅうが、はげしくふ
るえた。

とびたったちょうのあとに、白く、がい骨が、よこたわっていた。そして、
がい骨のながい黒かみだけが、まるで生きているように、つやつやと光ってお
ったのじゃ。

侍は、つかれもわすれて、いそいで、道をひきかえした。

ふもとの家に宿をとると、いま、見たばかりのできごとを、のこらず宿のあ
るじに話した。

するとナ、あるじは、ながい黒かみの女が、いつか、はるばる都から、美し
い藏王のちょうをもとめて、この地に、たずねてきたというた。

「おそらく、そのまま、もどりもせず、あの家で、死んだのでござりましょ。
ちょうは、その女をしとうて、いまもはなれず、舞うておるのでござりましょ
う。」

侍は、だまって、まなこをつむった。

むらがってとんでおる、まばゆいばかりのちょうと、あっという間に消えた
。そして、白骨と、つやつやした黒かみとが、まぶたのうらに、くっきりと
うかんで見えるのじゃった。



文王のちょう

まほう使いの文王

※いやはや、世の中には、不思議な話が多いが、これほど不思議な話は、またあるまい。※

いいまからおよそ、百年ほど前。秋田は、仙北郡六郷に、文王という男がおった。

「あいつは、まほうつかいじゃ。」

「へたなことをいうと、どんなにあわされるか、わからん。」
と、いうて、ひどくこの男を、おそれておった。

あるときのことじゃ。

その文王が、横手の町にあらわれて、

「きょうは、この横手一の大橋、蛇の崎橋をのんでみせるぞ。」
と、大声でいいふらした。

さあ、文王が橋をのむというので、横手じゅうの人がわいわいと、あつまってきた。川の両岸はもちろん、家の屋根、木の上にまで、見物人でいっぱいじゃ。

文王は、すっかりごきげん。にやりにやりわらいながら、橋のたもとを、なんどもなんども、歩きまわっておった。と、これはふしぎ。

いつのまにやら、橋はもう文王の口の中へ、半分ほどのまれておる。

あまりのことに、見物人は、あっけにとられて、ぽかーんとしておった。

すると、そのとき、観音寺の大杉にのぼって見ておったひとりの男が、「おーい、みなのしゅう。文王は、橋などのんではおらんぞ。ただ、うろちろ、歩いておるだけじゃあ。」

と、大声でどなりたてた。

どうやら、その男にだけは、文王の術の裏が見えたらしい。

さあ、文王は、かんかんにおこった。いきなり、ズカズカッと大杉の根もとに近づくとナ、両手をくみあわせ、人さし指をあわせて、空につんむけ、きみょうな身ぶりで、術をかけはじめた。するとどうじゃ。さしもの杉の大木が、ギギギーとひびきをたてて、川のまっただ中まで、弓なりになって、ぐーっとたれさがったからたまらん。男は、みごと、ふりおとされて、ボチャーン、川

ン中へ、水しぶきをあげて、おちこんでしもうた。

男がおちると、木は、まえとおなじように、ちゃんと、寺の前に、つゝ立つておった。

文王は、にやりにやりとわらいながら、町のさかり場のほうへ歩いていった。

そして、一けんの茶店にはいると、

「よう、酒をたのむ。あつかんで、いそいでな。」

文王は、しおからをさかなに、ぐびりぐびりと、のんでおった。

だいぶいい気持ちになったところへ、馬方が十人、どっとはいってきた。

「いよう、じいきん、酒だ、酒だ。」

馬方れんちゅう、だいぶつかれていておるらしい。それでもナ、酒がまわる
と、だんだん元気になって、仕事の話や、荷主のだんなの話をやりだした。あ
げくのはていは、てんでの馬のじまん話を、でっかい声ではじめたワ。

そばできいていた文王は、表につないだ馬のほうを、ちらりちらりと見てい
たが、いきなり、大きな声で、

「ちえっ。といつもこいつも、よくもまあそろって、やせ馬ばかりだわい。う
わはは……」

と、いかにも、ばかにしたようにわらった。

さあ、馬方れんちゅう、がまんがならん。十人が十人、口ぐらに、文王につ
っかかってきた。ところが文王、

「まあ、おまえたち。そうおこるもんじゃねえ。おれは、ただ、ほんとうのこ
とをいっただけのことさ。」

「なにっ。」

「おこるな、おこるな。こんなやせ馬の十頭ぐらい、おれなら、わけなく、ペ
ろりと、のみこんでみせるぞ。」

馬方たちは思った。

(このやろう、ほらを吹くにもほどがある。いくらなんでも、十頭の馬が、ひ
と口にのみこんで、たまるもんか)

そこで、大きな声で、どなったもんだ。

「やい。おまえが、のみこめるというなら、いますぐ、ここで、のみこんでみ
ろ。」

「そうだ、そうだ。のみこんでみろ。」

「のみこんでみろ。」

文王はにやりとわらって立ちあがると、みんなが見ている前で、一頭の馬の
しっぽをつかんだかと思うと、馬は、すーっと、とっくりの中にはいってしまった。

馬方たちは、おどろいた。思わず、これがほんとうにあることかと、自分た
ちの目をこすっているうちに、つぎからつぎと、十頭の馬は、すっかり、と
っくりの中にはいってしまったわい。

文王は、とっくりを、みんなの前にならべて、

「そーら、十頭の馬を、ひと口にのむぞ。見ていろっ。」

とっくりを口にあてると、ぐぐ……っと、うまそうにのどを鳴らして、つぎ
からつぎへ、十頭の馬をのこらすのみほしてしまった。

さあ、馬方たちは、青くなった。とちゅうでとめようとしたが、もうおそい。
こまってしまった。馬がなければ、めしの食いあげだ。と、いって、自分たち
から、

「のんでみろ。」

と、いったてまえ、いまさら文句もいえぬ。しかたがない。十人はそろって、
文王の前に手をついて、

「どうぞ、わっしらの馬っこ。かえしてください。おねがいしますだ。」

「おねがいしますだ。」

と、こめつきばったように、頭をさげたト。

文王は、それを見るとナ、

「よし。かえしてやる。そのかわり、わしに、思うぞんぶん、酒をのませろ。
どうだ。」

「へえ、へえ。馬をかえしてくださるならば……」

「どうぞ、どうぞ、お酒のほうはいくらでも。」

そこで、文王は、十人の馬方を前にして、ただの酒を、のんだワ、のんだワあれよあれよといふ間に、四斗だる一本、すっからかんにして、しもうたわい。「ど一。でかけるとしようか。馬をかえしてやるぞ。みんな、ついてこい。」

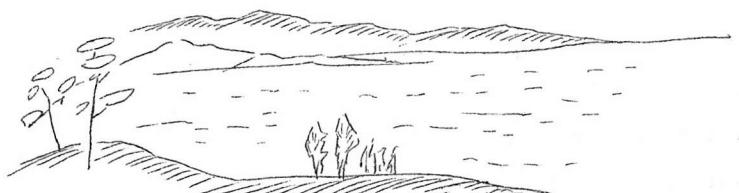
店をでた十人の馬方れんちゅう、もうすっかりよいもさめはてて、文王のあとから、ぞろぞろ、ぞろぞろ、ついていった。

しばらくいくと、文王は、立ちどまって、指さした。

「それっ。」

「あっ。」

なんと、そこはひろい墓場でナ、十頭の馬は、からだいっぱい夕日をうけてのんびり草をたべておったト。



歌集

知床旅情

1. 知床の岬にはまなすの咲く頃
想い出しておくれ 達のことを
飲んで騒いで 丘に登れば
かくなしりに 白夜は明ける
2. 旅の情か 飲むほどさまよい
浜に出てみれば月は照る波の上
今宵こそ 君を抱きしめんと
岩かげによれば ピリカが笑う
3. 別れの日は来たラウスの村にも
君は出て行く 晴を越えて
忘れちゃいやだよ
気まぐれカラスさん
私を泣かすな 白いかもめよ
白いかもめよ

妹よ

妹よ ふすま一枚 隔てて今
小さな寝息をたてている妹よ
お前は夜が 夜が明けると
雪の様な花嫁衣装を 着るのか

妹よ お前は器量が悪いのだから
はづい分心配していたんだ
あいつは 友達だから
たまには三人で酒でも飲もうや

妹よ 父が死に母が死にお前一人
お前一人だけが 心の気がかり
明日お前が出てゆく前に
あのみそ汁の作り方を書いてゆけ

妹よ
あいつはとってもいいやつだから
どんな事があっても我慢しなさい
そして どうしてもどうしても
どうしてもだめだったら
帰っておいで 妹よ

青い山脈

1. 若く明るい歌声に
なだれは消える 花も咲く
青い山脈 雪割桜
空の果て
今日も我等の夢を呼ぶ

2. 古い上着よ さようなら
淋しい夢よ さようなら
青い山脈 バラ色雲へ
あこがれの旅の乙女に鳥も鳴く

3. 雨にぬれてる焼け跡の
名もない花も ふり仰ぐ
青い山脈 輝くの
なつかしさ
見れば涙が またにじむ



戦争を知らない 子どもたち

1. 戦争が終わって 僕等は生れた
戦争を知らずに 僕等は育った
大人になって 歩き始める
平和の歌を 口ずさみながら
僕等の名前を覚えてほしい }※
戦争を知らない子供たちさ

2. 若すぎるからと許されないなら
髪の毛が長いと許されないなら
今私の残っているのは
涙をこらえて 歌うことだけさ
※くり返し

3. 青空が好きで 花びらが好きで
いつも笑顔のすきな人なら
誰でも一緒に 歩いてゆこうよ
きれいな夕陽の輝く小道を
※二度くり返し

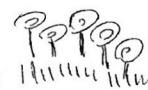


希望

- 希望という名のあなたを訊ねて
遠い国へと また汽車に乗る
あなたは昔の 私の想い出
故郷の夢 はじめての恋
だけど 私が大人になった日に
黙って どこかへ
立ち去ったあなた
いつかあなたにまた逢うまでは
私の旅は 終わりのない旅
- 希望という名のあなたを訊ねて
今日もあてなくまた汽車に乗る
あれから私は ただ一人きり
明日はどんな街に着くやら
あなたの も時折り聞くけれど
見知らぬ誰かに
すれちがうだけ
いつもあなたの名を呼びながら
私の旅は 返事のない旅

白いブランコ

- 君はおぼえているかしら
あの白いブランコ
風に吹かれて優しく揺れた
あの白いブランコ
日暮れはいつも淋しいと
小さな肩をふるわせた
君に口づけした時に
優しく揺れた白い白いブランコ
- 僕の胸に今も揺れる
あの白いブランコ
幼い恋を見つめてくれた
あの白いブランコ
まだこわいにぎりあるのなら
君の面影抱きしめて
一人で揺れてみようかしら
遠いあの日の白い白いブランコ



-54-

ひとり

風の吹く今日は風に身をまかせて
さびしい町を、歩いてゆこう
想い出もないし、恋もできない
来る日はまた生きて
ほほえみ合うだけさ
人生は今日のくりかえし

月の出る頃は港から港へ
こわれた舟で波乗りしよう
家のことなんかもう忘れよう
ひとりでただ生きて
夜は酒を飲んで
人生は旅のくりかえし

小雨ふる朝は紫の傘さし
役者のように気どってみよう
昔のなじみが声をかけたら
ただなつかしそうに
涙うかべようか
人生は夢のくりかえし



この広い野原いっぱい

- この広い野原いっぱい咲く花を
ひとつ残らずあなたにあげる
赤いリボンの花束にして
- この広い夜空いっぱい咲く星を
ひとつ残らずあなたにあげる
輝くガラスにつめて
- この広い海いっぱい咲く舟を
ひとつ残らずあなたにあげる
青い帆にイニシャルつけて
- この広い世界中の何もかも
ひとつ残らずあなたにあげる
だから私に手紙を書いて
手紙を書いて……



五番街のマリーへ

五番街へ行ったならば
マリーの家へゆき
どんな暮らし しているのか
見て来てほしい
五番街で住んだ頃は長い髪をしてた 可愛いいマリーは今どうか
知らせてほしい
マリーという娘と遠い昔に暮し
斐しい思いをさせた
それだけが気がかり
五番街は近いけれど
とても遠いところ
悪いけれど
そんな思い察してほしい

あの素晴らしい 愛をもう一度

- 命かけてと 誓った日から
すてきな想い出残してきたのに
あの時 同じ花を見て
美しいと 言った 二人の
心と心が 今はもうかよわない
あの素晴らしい 愛をもう一度
- 赤とんぼの歌を 歌った空は
何もかわって いないけれど
あの時 ずっと 夕焼けを
追いかけて 行った 二人の
心と心が 今はもうかよわない
あの素晴らしい 愛をもう一度
- 広い荒野に ばつんといろよで
涙が知らずにあふれてくるのさ
あの時 風が 流れても
かわらないと言った 二人の
心と心が 今はもうかよわない
※ あの素晴らしい 愛をもう一度
※ くり返し

竹田の子守唄

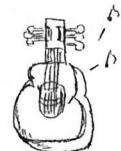
守りもいやがる ほんから先にや
雪もちらつくし 子も泣くし

久世の大根飯 吉祥の菜飯
またも竹田の もんぱ飯

この子よう泣く 守りをばいじる
守りも一日 やせるやら

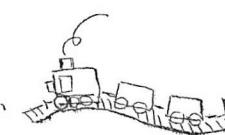
はよも行きたや この在所こえて
※向うに見えるは 親の家
くり返し

誰もいない海



- 今はもう秋
誰もいない海
知らん顔して
人がゆきすぎても
わたしは忘れない
海に約束したから
つらくても つらくても
死にはしないと

2. 今はもう秋
誰もいない海
たった1つの
夢が破れても
私は忘れない
砂に約束したから
淋しくても
死にはしないと



3. 今はもう秋
誰もいない海
いとしい面影帰らなくとも
わたしは忘れない
空に約束したから
ひとりでも ひとりでも
死にはしないと

- 今はもう秋 誰もいない海
いとしい面影帰らなくとも
わたしは忘れない
空に約束したから
ひとりでも ひとりでも
死にはしないと

翼を下さい

今 私の願いごとが
叶うならば 翼がほしい
この背中に鳥のように
白い翼 つけて下さい

※この大空に翼を広げ
飛んで行きたいよ
悲しみのない自由な空へ
翼はためかせ行きたい

子供の時 夢見たこと
今も同じ 夢に見ている
※REFRAIN

Mr. CLOUDY SKY

1. ミスタークラウディースカイ
おはよう
クラウディ スカイ
朝を歩けば、何があっても
笑い流してしまえそう
まだ、起きたばかりの
白いアスファルトだから
おだやかな足どりで
歩いてあげよう
あくびをしているような
白い雲 空だから
さわがしく あいさつを
してあげよう
にぎやかに話かけてあげよう

ミスタークラウディ スカイ
おはよう!!
クラウディ スカイ
何故!! 今朝はそんなに
うかない顔でいるの
ミスタークラウディ スカイ
ミスタークラウディ スカイ



幼なじみ

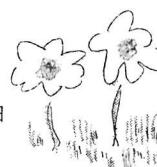
1. 幼なじみの 思い出は
青いレモンの味がする
閉じるまぶたのそのうちに
幼い姿のきみとばく
2. お手々ついで 幼稚園
つみき ぶらんこ 紙芝居
胸にさがったハンカチの
きみの名前が読めたっけ
3. 小学校の 運動会
きみは一等、ぼくはビリ
泣きたい気持ちでゴールイン
そのままうちまで駆けたっけ
4. にきびの中に顔がある
毎朝鏡とにらめっこ
セーラー服がよく似合う
きみが他人に見えたっけ
5. 出すあてなしのラブレター
書いて何度もよみかえし
あなたのイニシャルなんなく
書いて破って捨てたっけ
6. 学校出てから久しぶり
ぱったりあったら二人とも
アベック同志のすれちがい
眠れなかった夜だった
7. あくる日あなたに電話して
食事をしたいといったとき
急に感じた胸きわぎ
心の翳が晴れたっけ
8. その日のうちにプロポーズ
その夜のうちにくちづけは
幼なじみ
かおるレモンの味だっけ



ともしび

夜霧の彼方へ別れを告げ
おおしきますらをいでてゆく
窓べにまたたくともしひに
つきせぬ乙女の愛のかげ

戦いに結ぶ誓いの友
されどわすれぬ心の衝
思い出の姿 今も胸に
いとしの乙女よ
そこゆく灯よ



昨日・今日・明日

1. 何から何までつらい
昨日が終った今日は
涙さえ風に散る さようならと
今日から明日へ向かう
列車に飛び乗りそして
誰にでも声かける こんなちわ
昨日は昨日さ おわった日さ
明日は今日の為に 始まる日さ
悲しい話はちぎり
窓からすてたらいいさ
すぐそこにまっている
幸せがまっている

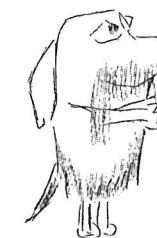
2. 何かが心にささり
痛くてたまらに昨日
だけども言えるのさ
さようならと
いつでも晴れてる空が
包んでくれると知って
町の中とび上がり、こんなちわ
昨日は昨日さ おわった日さ
明日は今日の為に 始まる日さ
だれかに会えると知って
何かに会えると知って
どこまでも歩いてく
幸せを求めて

ひとかけらの純情

1. いつも雨降りなの
二人して 待ち合わせとき
顔を見合わせたら
しみじみと楽しくて
あの恋のはじめの日を
誰かここへ連れてきてほしいの
あの燃える目をしていた
熱い人にもう一度 逢いたい

2. いつもリクリエムを
あの室で 聞かされたのね
ぎこちない手つきのお茶にさえ
ときめいて
なぜ 思いがけないとき
きめてゆくのあんなにも愛して
まだ 信じられないのよ
あなたからの幸そうなさよなら

3. 何も実らずにいつも終わるのね
若い涙 ひとつふたつ
今はいいけど
あの恋のはじめの日を
誰かここへ連れてきてほしいの
あの胸のうずく様な
恋をしてる人にならわかるわ



ルパン三世

足もとにからみつく
赤い波をけって
マシンがさけぶ
狂った朝の光にも似た
ワルサーP 38
この手の中に
だかれたものはすべて消えてゆく
きだめなのサ
ルパン三世
ルパン三世

心の旅

あー だから今夜だけは
君を抱いていたい
あー 明日の今頃は
僕は汽車の中

旅立つ僕の心を知っていたのか
遠く離れてしまえば
愛は終ると言った
もしも許されるなら
眠りについた君を
ポケットに つめ込んでそのまま
つれ去りたい

※ くり返し

にぎやかだった街も
今は声を静めて
何を待っているのか
何を待っているのか
いつも いつの時も
ボクは忘れない
愛に終りがあつても
心の旅は始まる

※ くり返し



若者たち

1. 君の行く道は 果しなく遠い
なのに何故 齒をくいしばり
君は ゆくのか
そんなにしてまで
2. 君のあの人は 今はもういない
だのに何故 何を探して
君はゆくのか あてもないのに
3. 君のゆく道は 希望へと続く
空にまた陽がのぼるとき
若者はまた 歩き始める
空にまた陽がのぼるとき
若者はまた 歩き始める
4. でんでん虫の唄
5. でんでん虫が
でんでん虫に恋をして
でんでん虫が
でんでん虫にうちあけた
けど でんでん虫は
でんでん虫をでんでん虫
6. 水虫が水虫に恋をして
水虫は水虫に話しかけた
けど 水虫は水虫を みずむし
7. てんとう虫が てんとう虫と
かけっこをした
てんとう虫は てんとう虫に
ぶつかって
てんとう虫は てんとう虫を
てんとうむし
8. 水すましが 水すましと
お風呂にはいった
けど あつかったので
水すましは みずまし



積木の部屋

いつの間にか 君と暮しはじめていた
西日だけが入る せまい部屋で二人
君に出来ることは ボタン付けとそうじ
だけど充ち足りていた
やりきれぬ淋しさも愚痴も
おたかひのぬくもりで消した
もしもどちらか もっと強い気持でいたら
愛は続いていたのか
リンゴかじりながら 語り明かしたよね
愛はあれから何処へ

二人ここを出ても すぐに誰か住むさ
僕らに似た 若い恋人かもしれない
きれい好きな君が みがきこんだ窓に
どんな灯りがともる
限りないこめごともうそも
別れだとなればなつかしい
もしもどちらか もっと強い気持でいたら
愛は続いていたのか
こんな終り知らず 部屋をさがした頃
そうさあの日がすべて

出発の歌

乾いた空を 見上げているのは誰だ
お前の目に 焼きついたものは化石の街
愛の形が こわれた時に
残されたものは 出発の歌
さあ今 銀河のむこうに飛んで行け

乾いた空を 見上げているのは誰だ
お前の耳を 塞がせたものは時計の森
自由な日々が 失われた時に
残されたものは 出発の歌
さあ今 銀河のむこうに飛んで行け
さあ今 銀河のむこうに飛んで行け

さあ今 宇宙に さあ今 未来に
さあ今 宇宙に さあ今 未来に
飛んで行け

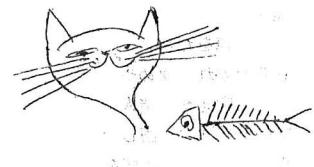
風

人は誰もただ一人 旅に出て
人は誰も 故郷をふり返る
ちよっぴり淋しくて
ふり返っても
そこにはただ風が吹いているだけ
人は誰も 人生につまずいて
人は誰も 夢破れ ふり返る

プラタナスの枯葉舞う冬の道で
プラタナスの散る音に ふり返る
帰っておいでよと
ふり返っても
そこにはただ風が吹いているだけ
人は誰も 恋をした切なさに
人は誰も 耐えきれず ふり返る

何かを求めて
ふり返っても
そこにはただ風が吹いているだけ
ふり返らず ただ一人 一歩ずつ
ふり返らず 泣かないで歩くんだ

何かを求めて
ふり返っても
そこにはただ風が
吹いているだけ



カチューシャ

リンゴの花ほころび
川面に かすみたち
君なき里にも
春はしのびよりぬ

岸辺に 立ちて歌う
カチューシャの歌
春風やさしく
夢がわく み空よ

カチューシャの歌声
はるかに丘を越え
今なお 君をたずねて
やさしい その歌声



乾杯の歌

盃をもて サア
卓をたたけ
立ち上がり 飲めや
歌えや 諸人
祝の盃 サア 懐しい
昔のなじみ 心の杯を

飲めや 歌え
若き春の日の為に
飲めや 歌え
みそなわす神の為に
飲めや 歌え
わが生命の為に
飲めや 歌え
愛のために
ヘイ！

盃をもて サア
卓をたたけ
立ち上がり 飲めや
歌えや 諸人
祝の盃 サア 懐しい
昔のなじみ 心の杯を

山賊の歌

1. 雨が降れば 小川ができ
風が吹けば 山ができる
やっぽう ヤツホホホー
さびしいところ
やっぽう ヤツホホホー
さびしいところ

2. 夜になれば 空には星
月が出れば おいらの世界
やっぽう ヤツホホホー
みんなを呼べ
やっぽう ヤツホホホー
みんなを呼べ

3. 風が吹けば 波が立ち
波が立てば 舟がしづむ
ウッサー ウシシシー
人のものは
ウッサー ウシシシー
おいらのものさ

もう一度帰ろう

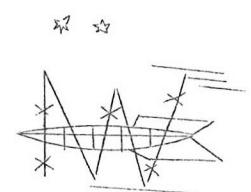
※もう一度帰ろうか
ぼくはぼくの町へ
もう一度帰ろうか
君は君の町へ※
REFRAIN

いつか二人ほほを
よせあって風にゆれた
丘に今日は一人やって来たよ
※REFRAIN



旅人よ

風にふるえる
緑の草原
たどる 岬く
若き旅人よ
おきはるかな
空に鐘が鳴る
遠いふるさとにいる
母のうたに似て
やがて冬が
冷たい雪を
はこぶだらう
若い足あと
胸にもえる
恋もうずめて
草は枯れても
命はてるまで
君よ夢を心に
若き旅人よ

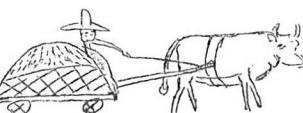


☆ ☆

岬めぐり

1. あなたがいつか 話してくれた
岬を 僕は たずねてきた
二人で行くと 約束したが
今ではそれも かなわないこと
岬めぐりの バスは走る
窓にひろがる 青い海よ
悲しみ深く 胸に沈めたら ※
この旅終えて街に帰ろう

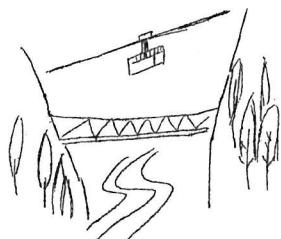
2. 幸せそうな 人々たちと
岬を回る ひとりで僕は
くだけた波の あの激しさで
あなたをもっと 愛したかった
岬めぐりの バスは走る
僕はどうして 生きてゆこう
悲しみ深く 胸に沈めたら
この旅終えて街に帰ろう
※ くり返し



帰らざる日のために

生まれて来たのは なぜさ
教えて ぼくらは 誰さ
遠い雲に聞いてみても
何も言わない
だからさがすんだ 君と
でっかい青空の下で
この若さを すべて賭けていい
何かを
炎愛する人がいるなら
求めるものがあるなら
なんにも怖くはないさ
そいつが青春
涙は心の汗だ
たっぷり流してみようよ
二度と戻らない
今日のために

生きてることって 何さ
走ってゆくのは どこさ
風は寒く 笑いながら
顔を打つだけ
だからしるすんだ 君と
荒れ果てた土の 上に
この力をすべてこめた足おとを
愛する人がいるなら
求めるものがあるなら
なんにも怖くはないさ
そいつが青春
燃えてる夢を
いのちを残らず使ってみようよ
二度と戻らない 今日のために
※ くり返し



校歌 登校賦

○浅紫に明けてゆく
生駒金剛造にみて
明の光身に浴びつ
希望に生ける健児あり

○天地をこむる風雪を
さて咲くや白梅の
香りも高き姿こそ
我等が永久の旗標

○この旗の下筋に
若き我らの道行かむ
古き浪華の夢ならぬ
吾等の歴史いざ書かむ

Class ic 生高小唄

1. 金剛山脈背景に
歴史名高いちぬの海
その名を世界にとどろかす
あれは名門生野高
2. ぼくの彼女は〇〇さん
生野高校の桜花
折って机の上にでもかざって
花見をしてみたい。
3. 朝は朝とて夜は夜とて
胸に焼きつくあのひとみ
けさも電車に乗るかしら
生高男子は恋に泣く
4. 人目忍んで会う夜は
かわいいあの子の目に涙
こらえきれずにこの歌を
生高男子は思い出す

MODERN 生高小唄

1. 浪花の町には何がある
生野高校があるじゃない
生野男子が町行けば
町の乙女が振り返る
2. ちょいとそこ行く娘さん
恥かしそうになぜ見るか
美男子ぞろいの生高へ
来たいとはっきりなぜ言わぬ
4. 賢実、剛健、自治、自重
至誠の言葉を胸に抱き
生野男児の行くところ
つねに女難の道が待つ
7. 始めてかわしたくちづけは
甘く せつなく
ほろにがい
ふれあうお手々のその中にや
熱い血潮が流れてる
8. 東大 京大 阪大は
昔の学生の夢なのさ
生野男児のその夢は
無限の彼方に 描く
10. 今日もふられて又明日も
どうせふられるこの さ
なげくな生高の諸先輩
失恋もふられても又楽し
17. 生野高校の女生徒に
好きな食べ物何ですか
聞けば即座に答えるは
「たこ」に「なんきん」「おいも」です
18. 大和なでし子ここにあり
生野高校の女生徒よ
清くやさしく美しく
生きよと言うのは無理ですか
23. 一言文句を言う前に
生野高校の諸先生
何にも言わずに信じなさい
あんたの生徒を信じなさい
24. 生野高校の諸先輩
たちやあんたの後輩だ
出来は少々悪いけど
日本男児の意氣はある
43. 生野高校の諸先生
みんな良い人良い先生
てなでなおだてに乗るようじゃ
まだまだ勉強がたりません
46. 早弁居眠り 手内職
駄酒落も飛ばせばゴマもする
教師泣かせの我等だが
胸の想いを誰が知る
54. 試験試験と騒ぐんじゃネエ
どっかり地球にあぐらかき
宇宙の果てを眺めれば
試験なんぞはちゃちな物
60. どうやら時間となりました
最後に一言申します
たちや若いんだ青年だ
無限の未来に栄えあれ



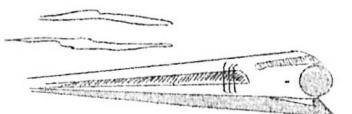
論 説

高校生活最大のハイライトともいえる修学旅行－東北への旅。わずか四泊五日の旅ではあるが、昔から「みちのく」として親しまれてきた東北地方の素朴な人情や風景を満喫をしたいものである。

普段と違った環境のもとで日々を送るのだから、自然と解放感に身を浸してしまう。日頃起りきりそうもないことが、平然と登場する。個人としてではなく集団として。しかし、こういった特別な機会にこそ規律や公衆道徳を身につけるべきではなかろうか。集団の中での自分を個人を見つめなおしてみるべきである。

日頃、語り合いの機会の少ない我々にとっては修学旅行は絶好のチャンスである。先生とも、「教師と生徒」としてではなく、一人の個人として接触できる。宿舎での夕食後の一時、グループごとに輪をつくり、トランプをし、歌いしゃべり、夜のふけるのも忘れて興に打ち込む。徹夜で語り明かすのもいいだろう。

ともあれ、先生と生徒の信頼関係、生徒同士の人間関係など日頃忘れてしまっているようななかを見つけだしたいものである。個人の中の集団としてではなく、集団の中の個人として。



製作スタッフ

編集 シオリ委員会&修学旅行委員

協力 表紙デザイン、カット 美術部

論説 新聞部

名所案内 地図部

裏見かえし 書道部

資料提供 小井先生、高橋先生



1974 修学旅行のしおり 非売品

昭和49年10月1日 初版発行

著者 大阪府立生野高等学校28期2年生

発行所 大阪府立生野高等学校

580 松原市新堂1丁目552

電話 松原 0723(32)0531

印刷所 明和プリント

大阪府松原市北新町4-3-27

0723(32)7153

——樹下の二人——

高村光太郎

みちのくの安達が原の二本松

松の根かたに人立てる見る——

あれが阿多羅山

あの光るのが阿武隈川。

かうやって言葉すくなに坐っていると
うっとりねむるやうな頭の中に、

ただ遠い世の松風ばかりが薄みどりに吹き渡ります。
この大きな冬のはじめの野山の中に、

あなたと二人静かに燃えて手を組んでゐるよろこびを、
下を見てあるあの白い雲にかくすのは止しませう。

あなたは不思議な仙丹を魂の壺にくらせて、
ああ、何といふ幽妙な愛の海ぞこに人を誘ふことか、

ふたり一緒に歩いた十年の季節の展望は、
ただあなたの中に女人の無限を見せるばかり。

無限の境に喰るものこそ、

こんなにも情意に悩む私を清めてくれ、

こんなにも苦渋を身に負ふ私に爽やかな若さの泉を注いでくれる。
むしろ魔もののやうに捉へがたい

妙に変幻するものですね

あれが阿多羅山

あの光るのが阿武隈川

ここはあなたの生れたふるさと、

あの小さな白壁の點點があなたのうちの酒庫。

それでは足をのびのびと投げ出して、

このがらんと晴れ渡った北国の木の香に満ちた空気を吸はう。

あなたそのもののやうな此のひいやりと快い、
すんなりと弾力ある雰囲気に肌を洗はう。

私は又あした遠く去る、

あの無賴の都、混沌たる愛憎の渦の中へ、

私の恐れる、しかも執着深いあの人生喜劇のただ中へ。

ここはあなたのふるさと、

この不思議な別窓の肉身を生んだ天地。

まだ松風が吹いています、

もう一度この冬のはじめの物寂しいパノラマの地理を教へて下さい。

あれが阿多羅山、

あの光のが阿武隈川。

旅のじようり

東北
2B期